

エクアドルで狂犬病が発生

2011年11月29日 ProMED 情報(EI Comercio)



11月に入り、モロナ・サンチャゴ Morona-Santiago 県で、ヒトで狂犬病が流行しており、27日に1名が死亡しました。この結果、死亡した子供は同月合計6名になりました。このうち4名は検査で確定診断されています。6名は Taisha 郡の Achuar de Tarimiat と Suarik Nuevo の部落でコウモリに咬まれて死亡しました。コウモリが狂犬病ウイルスの媒介動物です。

また、現在8名の子供が、身体のふるえ、けいれん、発熱、頭痛、よだれをたらすなどの狂犬病様症状を呈しています。このうち3名は危篤状態です。

〔ProMED 調整者〕

今年9月、同県で吸血コウモリによるウシの感染例が報告されました。今回の患者は子供です。報告された場所は、アマゾンの先住民族が住んでいる複数の部落で、エクアドルとペルーの国境沿いに位置しています。ペルー側に住むアマゾン地域では、今年初めに吸血コウモリによるヒトの感染例が報告されました。通常、ウシやウマは吸血コウモリが好んで吸血します。エクアドルでは今年3カ所で吸血コウモリからウシへの感染が問題となりました。

今回のヒトの症例は、今年最初の報告例です。